へ13
2947
21

国会図書館

大
福助
相撲

21
へ13
3004
へ13
3004
特
へ13
2947
21
昭和九年
七月二十日購求

田舍談義(ナカダンギ)多数(ホツメ)遍(タヘ)

昨(ソレ)去年(コゾ)の秋(アキ)。いづゆ市中弘

が一席(ヒト)を避(サケ)て。鄙(ヒナ)の

有(ナ)れども。加(カ)祢(ネ)乃河北(カホク)

去年歳朝友(トモ)のありなる

ものを。仲庵(ナカウアン)をうち

出る日。秋晴の鼻と鮮色。
松色陽と彩。月ふるるほど
景物皆風流と節ふり
つまく田家の軒ふ。蕎
尾花丈高に海ふ。
赤身紅葉ふ秋ふ。

往往ふして。草加辺
澤ふ。酒肴丸柱を
ぐめく。一椀の酒を求め。
ふ中ふ毎ふ。思ひ
床机ふ腰ふ。人ふ
起をくふ。月ひとし

男法丹一人れ翁なり。八翁
の曰容好ぐ戯作をあ
こゝを去り。倫父嘗て述
多紅一興子をあゝ一度
閲時を思ひ釣魚をば。
縁匂ふ居りをを告げし。

賈大丈妻とゝ
笑を修也事述那子
一
ハ竹ハ竹塚の翁とを
かの草移をアが袖よを
入ゝ去ぬと思ひ同あて
袖ばさぐ居りはあ

一冊一卷を録すより
未(イマ)審(カシ)し其(ソノ)書を写すハ
左様如し云々

江戸市隠
山東京傳誌

自序

稲荷ゝ天地ゝ怖き恐れ
多しと深く秀吟ゝ
賢賢乃
御代乃ゝ義國ゝふ仁讓
ゝ有ゝ有ゝ物成

[illegible]
十重二十重のふすまの
いまはの際に皆々苦しと
[illegible]
屋の棟ひしめきさゝめき
かつ〳〵法師ばらくおそ

なほ世間をひゞめて唐四方
稲うゑわたすがごとく金色
光光(ひか)りて云〳〵無量あり
[illegible]て[illegible]ゐ仏菩薩は
[illegible]
[illegible]

かきりなき高世乃下にそみ
そめし事なかりけるとそ
屋中ぐ聞伝し事唐朔
小納言置しる蜂家の道
くゝ丑一冊子ゝ書そ
笑ゝ伝いとゝ法義ゝの

[illegible]

田舍諺義

[illegible]江戸を西町奈良て苫
師乃師あり東八利根川の流を御
[illegible]風の帰彩稲弁に移り
面水中河乃青々茅屋して名物子
乃青水田とのゝ真地法多ゝ[illegible]
ひの[illegible]豊作西[illegible]
稲ゝ稲穂の名帰東ゝ付秋をゝ

としに岩ゑめ盛作小して四位とり乃
さんの事語て金岡村の藤作娘よこと
私り一村の嫁は縁付くれめて屋
金も粗と併月乃三日に得村らくも若
いもの縁を押して家ぬの幸助小の川原のひくりのし
あまたたるものの中と成りにメ九木桐の下語らし
あひくるとすけ源流しのそうれこそくま来ての代をけらう
ちらうるのこそうて婆徒ひつけるみかやと紀の出のりく承乃
うちこうりとりらるまこうしの身拭とうけ御身と二ろのま
ひろうり
至り　とけへいしの八風つきろ弘見えしやァ

縁くうげてへ来ぬく出かけさァおかまちうきへ
一ふまいくだへハナし嫁けられ　助ども　ひどいおかさんるされだ
まなちや目川の小紋の絵よ女さん家の世話るをうけてそうくど女の
セウもとり出事をメ扇まり御深のかあしひをうけ久ざうアをとも
らで斗ヤな　だ来てざァし　御めくつてアをやァ家ね乃
御もぬァらぞけへ歩乳ざァ　杢　知らァ法度
ど　まの施法へいく魚いとそうて　施よみと八法　笑談法のます
とは　助　施りやァおきどくだァね施法も〓
ま　事のうらハはんぢんるすづくぞ。縁つるし

みもきく梅くよ。もとつせんぜんけのござ
すん舟く。何ござアりきちぶらぶアしよ。そうやア
さうし。世めらがさうりの御手るア。小當
たアげざア。けくりヤ そう哉。欠落のものとも何の
でぬるまし とアそくちヤア はちつと
ざアしぞうきもし さる 壺 何のかりのよ松戸
にがの。おん女郎でぬけさア。おそれもハア
無ござるる 唄 よ 少 さんだら女郎でう

ぞりておる 壺 そんざアるまいけちがんの
悪い旦那のねだアが。江戸の本金浦まぬ
て去年の春あ殺手してア。おそのかしこぞろ
くよをうさ。浅草御縄の押手とおそつまる
ぶるてわん女郎まぎうれさアが。虎のう
まれてとうぞでかけさア。ゆけくとてなあ
いけざアよかし。唄して何やうし隣村の
通り者 小松 唄 東今の夜をつが背ナセ

どで鳥がなくぽとゝぎすどら

考ちりハ何と[illegible]の[illegible]なれハこゝよアンチを

じやわらりてこゝやアがたけくぽ悔しいゝでか

く感ずるさゝがたる孫【多人】松あるまいゝがぽ峠ぢあらハ

悔みす孫へ玉面ハうくぞ来なり【小松】いく其アー

孫へのさぼむぢいねぶアゝ洒のうけなきながら孫

へのさだくぶ店が流りぢいゝつてづゝつて居のン

まん金ハドゝ三人連れ立店のまよいゝな

まづ是の店くいゝらりなりくこゝ[illegible]くこゝ[illegible]

まゝらし紙みうらく何本ならくめげくこゝ[illegible]の正面の

三

戸松よりくぽ楼まようつりれハぽ小笑てもちろ、あるまゝ[illegible]の[illegible]

が此店と出そちら方ハ何ゝ[illegible]の三日正月の時ハ村中の[illegible]男女

より集りぽちうや[illegible]りくきしてぞゝうゝひ

まさ[illegible]く流くくるけて去年の時ハ久ぶ[illegible]

【小松】亭之ね

ふアゝ【[illegible]】 松せるアがれもとく知やちつくさアー

よらくぽあねの[illegible]れアなくし婦りぢねゝ

【[illegible]】

の のアよハア[illegible]くるが。いゝつでもうらくやアめく

ちゝくかゝと[illegible]へのうかし小字ぼあへぶアよ

よつくぷゥ[illegible]の人きぐアぢ[illegible]かくりきん

【[illegible]】ちく[illegible]んゝいゝ[illegible]へがいつかゝと[illegible]く

ちゃいまぶして、ちんでおもいかきん
又ゆ泥ぬりばちゃ　女房　ちゃいのんぞ
助ちゃどんはまちゃ雷にぬいちゃトス
ちゃいくざうちんなのごつちゃうちゃセ
三人　何ぞぐちゃ五ハ孫ちゃちゃづもあんべん
ゃちゃ山沢ア細代ぞぐ　子ども　にのごうえ
ゃちゃ面舞の焼さがあるぞで去つゃ
ちゃどちゃ四ちゃおめいく間ちゃかん渋

ちゃ合ぬいれく米俵ちゃ生ちゃこん
ちゃあぞちゃ去ちゃ法行ちゃ紀ハ村の
ちゃちゃ百姓ハ人奴ちゃ屠く屠り間と
ちゃうちゃ去ちゃ　絵　おちゃ長ちゃハおちゃの間を
作ちゃおちゃく去年ちゃ五俵ぞくどちゃよ
ちゃ年ちゃ三ちゃふ孫ちゃのちゃ彩りちゃア
ちゃいちゃ娘ちゃ新田の舎弟ぞちゃちゃ
ちゃれぞちゃちゃりてちんぞ馬喰ちゃいちゃ

時大九てたをかくべく世ついろ
たくさつちまやたに茶ごさあ富沢丁へ
いろはさくまつまぐこだくまるぐ出く
そび伝町をかくうちやられて鳥町を
ときてごたあくもづ四くと鳥丁と六八
ほりやあ多い地藤紫陽ちく鳥九さ
雑子町八神田そ坂八本御さやいを
多紙ほくりつ吉弐買ひこ

切まくいつくはんちそび伝町ぎ
とおくうてかうく尋ねてでく十石
ちあたののさ女八ツ一いきう地を二ッ
四つく茶ちくと【茶】ソリヤハア【伝】いけへりの
ひくじあ知とりてとうくこ【蔵】伝のサ
二ッ弐ちくひくくくつくくちくて
ちくてあ振ちりあとよ地い法茶ろ
きあて金ちくでやてくく紙ふよ去

仲之鶴亀うごつ[illegible]てあまたて
ニツくたんごきを方て賞まきさを 五九 て
アをやアおぶごごんへいい歩てもやをアア
ミ子オ[illegible]めく 五八 サアあ[illegible]ごまアさごて
天ひくくさ[illegible]ちちちつのごごごびくいひまを
五七 ア[illegible]ごうかを[illegible]ておをごいしるぶ
扨でごりくを[illegible]くてふハつをは 五八
ちちをアをんを[illegible]ごアおつを[illegible]ごを代を

ヒ

者をひちつ風ひを[illegible]ごつちをく声を
ちりゆげて[illegible]ゆあ松のを白
ゆてをちをゆちを杵して保をはく
ちを同出をひを[illegible]ごをアひをす
をく 五九 ちちをアを世ハをさアを[illegible]をと
ちて右ちをけるん世の行隅ハいを者
ひちり馬元帝[illegible]ん文りて原を[illegible]ちを
ゆちちを[illegible]ちを[illegible]ちを[illegible]ハ

[illegible]の指あく　[illegible]コレこだぐ濱のおそれア
[illegible]けくやんでを[illegible]こげ金町のこ奴とぢく
[illegible]ちりとそら要[illegible]の馬ア[illegible]こ奴やつら
稲を八[illegible]つくれやがつて十粒[illegible]を
[illegible]た[illegible]をとるもいちくせて
[illegible]土浦の馬市へ[illegible]てあるやがつて
[illegible]と虫のいてやちくよ[illegible]やそこと
[illegible]八[illegible]の金八[illegible]ごう　[illegible]仁のこハア

[illegible]くもそこ[illegible]ぐんぬく[illegible]は
[illegible]ア水戸へうこ[illegible]ア[illegible]ごくよ　[illegible]そこ
[illegible]ぐかアでも[illegible]つこられいい　[illegible]あこ
[illegible]ものをたんま[illegible]ぬきげこうぐ。
あくびをきてゆ[illegible]れかアと立ち[illegible]
つくもやぐアよ　[illegible]そんなこ[illegible]をるい
しやアそ[illegible]でもこ[illegible]をたくやこぐやア[illegible]。
[illegible]いこ[illegible]でもあぐ[illegible]ぐんこ[illegible]

〔天〕たアだごとはく経なりとくも極へ行てもでウ
湯が極ぐがしてい主隔り出割ッてもヴボッかん
湯に見えて．逃よ切りはげの．ずがんのつイ
こだ切てしく．コレ告．時が動きエアんせさ
あげつ歯ハ（なぎの歯とハ六つのあり様を云）ざけへも包いく．い
れ極かいかあんにさ寺てある
〔吉〕そんでえるかりかんさびの鳥ャア．を
将が軍が．あるとの両湯を出していく

九

高涸よりてさ川せきの奥の厨家のこい
大石好の小豆那として（陵芝きあ小紋の紋なの岩屋織きそうにぶかり
のひとへ物小豆とんをの帯とむすをきめて行ク詩なり扇子
をゆう二年よ三ツ者ッて八吉原へもゆくとけ風俗おもハそぢえの
ぬしや逃留賀ハ徒席よりかんけの石の稀なりに行かん小紋の
ひとく給よ吉田との帯かとえ八ぐんかくも為く太くきさかりの
きうてくてりの
りけ実入りく）〔座敷〕小豆那なり．ごまり村へ．に戸
うら放蕩かよつ家古しや無だつく
大学ナア講訳まるげざア言あしサア。
ゆらめりしてかでかかる憎サアいかとめし

〔小嶋〕ゆのまアもめへが。江戸ッ子も流行てまいりやく
らくざアくし。言る所を何さアめんずん座へ。
行んでは遊屋やア。まアござアんせんかへ
此どもされが極の江湖岸の女郎ば
て狸持のことのしく（ひのロ江戸の客とは）出ていてエん
世金へコレかくて豆硯箱をもちつくかきく
〔かつ〕アイしいって掛物をおもてもある〔小嶋〕懐
ゆうっ小紙入をとり出しをとりて出

〔極屋〕つこのぢ濁酒
サア極屋老しけだるとて
大騒判夕風四文銭一本懐中女郎
買住様八風屋大数居を五疊。ハア、
こりやアもうまアとしし来みてみ讃ちアでお
りしく。ボル好も中く、たのしをとあり
とちす。イヤこぶが屋けめしし、いアと（此極屋に小嶋のかくふくてむ）
ヤアしに実しるる玉〔李〕何といろ亜吉をきまや
毛唐人の孫ごとでげへよ。おづりしいろん

じゃあ、ごれうそっぱ。どごへ行ぐ。
お伽様もおっぱんぶ。だくさんいっつく。
年とどの。姫のけっぱいんぐ。ごぞ。
助 ろよいっぱ。あれ嫁。ごん
ぎっぱ。ぎっぱ。ごんぐ豊年ごっく
利
ぶぶのおっぱ。松 あんぐんぐ
ア助 きけ。ぐんぐっけ。ぐれよ
助 ぶぶ。ぐっぱ。ぶぶのもの

孫兵衛 やっぱ。あっぱ。ぶぶ
松 ぶぶ。ぶぶ。ぶぶ。ぶぶ
ぶぶ。ぶぶ。ぶぶ。ぶぶ。松。ぶぶ
ぶぶ。ぶぶ。ぶぶ。ぶぶ。ぶぶ
助 ぶぶ。ぶぶ。ぶぶ。ぶぶ。ぶぶ
ぶぶ。ぶぶ。ぶぶ。ぶぶ。ぶぶ
ぶぶ。ぶぶ。ぶぶ。ぶぶ。ぶぶ
主 ぶぶ。ぶぶ。ぶぶ。ぶぶ。ぶぶ
助 ぶぶ。ぶぶ。ぶぶ。ぶぶ。ぶぶ

ときかね八[小松]までもひゞくばかりおんとハ
ごいんきよ者ハ、よけしてかけきん、ちんねう
もんちうゆうりし遊ひ、ちんげんげざん
ご人まで、おごりて志かりぬべし。かく守いて
ごぢつりよう[加]てア遊びつゞきぞんおまうく生
おそし、ゆめよ

寺（てら）村（むら）の法（ほう）福（ふく）寺（じ）といふハ、二村一ヶ寺法

旧地よりして、古くハ弘法大師の御作の阿弥
陀如来なり。然ば大満作なれば、本堂修
覆のことに追々御より存る為ぞ讃義信。佛
閣寺院天風和尚を始として、諸山中豆
夜談法ありければ、追々と信心ハ盛
なりて、万事の事遠里が間の老若男女群
集るほどに客も数多く、松板を並べ法会
とかし、村内の檀方世話役、庫裡茶

寄る縁けも他のこゝろれなり。本堂乃
あげし法ありし佛餉供の秋なりき。
伊せ町小個町乃入舟まちみなれて。其
あけ夜ハよ歩きまわりて。本堂れ前まハ。
手向の花とかざり。盆でうちへの
白法と。西の帖しつけ。双紙二挺よ法
ちれを鼓と交く。鐃がね念仏乱
調よおさうまハ。裾風をさそひ陰々

鄙もすこし隔たり近来は払ちる紀大尽
つもしで。村中の小道もせばく。犬さへ住ま
あらはらし竹ゆら耕作まひびいて。夜への
よる事ともなし。宿へぞ。うたてや若衆乃
ちがひゆるとかんじて。半鐘の音かすかに聞ゆれバ
なを かゝ 子ども引つれやきもちへ かへるあのべみ物かねばなりく
若者 コレ きゝやれ。こりやく
まだ深くへ。モウ おまへんぞもぢからア。いけ
聞のあり様へと。いづれもくとりが紀門の入口紙挿合て
遠入る門の内の 秋垣の 隆く十七八の

娘ゑつこ赤びりのゆもさに黄糸そぐの手一反の帯に上田の紙の三
もりとおのの方にてこそみ朱もらくのきもりをあらゑ反こそ
ゑ〻陳らけの女樹をかゑりくまつぜいこゑろていれいらん
そこの竹せぜとかさくこ神もけてそこら牛りの二方ら糸びろう
ど の袷く油しゑの帯をしらんのる紙を 三方 そこゑア
ゆ日よりて時めさあこをきるる

ゆもぜや 袷ぐら 娘 だれこ徒どんぺいろく
ゆきましこアよあぜいきんゑふおとくごゑる

三方 ゆれもが氣いちくかる。日いれる。そつゑ
そうかんたりてナな道をこゑゑく遠うる
ひゑ伊ら背アのゑきくゑをまゑ

十四

とて 横ちつどんの糞溜ぐかちこら
して 彩くぶア つくもかるだも 糞ぐひゑ
ちゑりこんどんぐちふ あひまこくこぐよ
もがをべんりよぐごうんねうる 用ゑ堀へ
どんぐこそびこんで ひゑかア せんぐく
のこきのして 洗唐茶屋を彩で 袷
ゑくこそつと見娘のそけくそここつく
みつて 面こくこゑ 袷こっこゑまぐ

粟の白へがミやせん 娘 かんよナア居るがよく
ござる。ぞもけがナアきめくさあう 三 このよがア
けがいきうへが。たゞ多葉まだへちうさ葉よ
娘 そんぶいゝ。こん嫁ハ肉の前身でも
かくいゝ。ゆめいれよあれんだへ。いゞげへいく
べいりナ 三 猿さへあそびけへだ。たまきうる。やり
かうちやアよく猿へ。ころちへ未さへと 娘のものとひき数の
中でそうていきところしてさくんで。いれバ此坊がきてむやう
まふのてげどふ。あのひとでおやつぶしく。おんこうまいらやつので

△ 梼諱堂のよにようどしごろ五十ちよとき道心坊白や
めんのひとつあるよ。麻衣を着よみすき。きずうちりをかちて
あかし出る。ごさりう四十四五の女ハ良家とこゝで。花いろ木綿の帯
とへおよ。さん海諱の帯をおくむすび。堂もあをまくをさし。
そうへうゝるはめぐひをそへ。
二人ながらいいふみさむきを 坊 これ坊さまいしやア
粉をハ猿へさァよ。此人ハ猿わりよろつはりん
ほうじぞ。つくもひんをねへ。あそびハアあんるアよ。
生が悪くござれバ。おとなと猿へごろをと。ごハ
ドめんゆしこハ。あれるさきも。ころやきらめく。
去年の盆の拙経の時。同の者ハえんだ。

踊りもおの気をうつして、パの間まで出
とものぞでものしてまるこへ入れても。
いづれ新ぶんどもいいしまつてあるよ。
けれども秋風どん変へげもてもの。
大方ほかいい根ぐでこたんべ。あり
るもの。白状さるあまつ。おれが家ごあ。
おものまてあるもおとも。金ぶ侍まの
おらんのこまりのみ。ゆしまの話。

踊りもおの気をうつして、パの間まで出
とものぞでものしてまるこへ入れても。
いづれ新ぶんどもいいしまつてあるよ。
けれども秋風どん変へげもてもの。
大方ほかいい根ぐでこたんべ。あり
るもの。白状さるあまつ。おれが家ごあ。
おものまてあるもおとも。金ぶ侍まの
おらんのこまりのみ。ゆしまの話。

中程のきれをけくしてそこらひきてべ
と信濃国の大名[illegible]やうやうちら
も極く暇をこうてさやうやうの八月廿五日
ゑ極くよ出ばらっぱ腰ぬけらが牡ろつく
いぐるのうこの[illegible]衛門の伯樂をよみ
せてこう人間の極くらくやうおきがくこうこ
きこう極く死で年ふるつこう療治して
やうやうこれうぞらくをこるのをこう

ていぶうこをこらをこ中ゑぬけ[illegible]ふぬ
きこまふくこく新新をこいぬくはもあれ。
外をかせぐやうれ道ふこやうこぐこぬ陰の
物ぐこをがいくこまこ。猫の頭むこやうま
こびこ。鰹節がいくこやうこうこ。
日市で買ってきこくこ食べかけこくこ
ら。そのやこう。だぐこ食いこく。おぐこんをイ
こ方ゑ外ゑのこくこ。おもりて。

あかるいうちまで待ましさうきげくを
たちさへこうじやアんおかりしいらく。おにだうろ
うれて。吐しませうと　○杉家の生まれ本堂のうくつれくゆく
廿絃　サアく妙法蓮華経くふ。なむあみだ
あみだぶつくつく。南無仏へ急ぎあみだぶつも
なげうまん遍よ　京話　コレあんゆり世界なれ
つよ。子供がみな念仏　円　て上むく。ちらく
やと居ん。かやくさるさうと
押会席一会
人ぎ為の中ぢ

十八

女よ乙イ男ともみかたまえもつてつるやく
あかりとおりくさハざしれバ枡をはずるに　廿八紋　東西く
東西くともすハたんざく又ほうれの
りんだうの時ゆうらてむ方の風呂
諸衆僧ハ高座
よ鉢のどたち。京清どうとおろし。アとん
と十ヲ斗りうちならし　天風和尚　アヘシくエと志ほ
ところの。焼香清らさ去西く。首塚を
縁者みんご念。南無ゐのく。
和尚　さアく世る市ハて手も結ごさ川て
ぢいさ女ならでアぬたち。かくる並一流。

子ども等を。斉特のようくまいりまつり
まし。當寺はお堂もえんまつ堂
でかくてくぼなる。おすびやしふよりて化
力のえん。はれさアア。法法を拾して遂
ましまするむと。お住寺のたのえんまつ
りて。世世ゆりうる。ぢちめさぶが。仕
合をつく。でかいいえ法で。ちうびやし。
故又おのくの。ほとなるめされさ拾と。

て今度初ぶくまつりをべいと。いつう善信
慢西をさしだいば。和尚 あけうく 工 佛物一体
當村住信ゑ。ちめ先祖ぶびのえん。
二位金所村八六負。法生夏のえん。
胴指定。當村久助毎二さい。所ちえのえん。
引別きと位。高村村ちえ。先祖のえ
ぶちもちき堂おいぶ村ぢけ。ゆえ
どの今。指者へえ義のえ。秋葉えい代

毒国正綱。善国と便房老が盛の教し
う法度夏の名わだこと後ぶ所の法
度夏ふる程ふ内中女とおくも延下面
むしのこと（同音十ぬん墨）和尚さてもや。豆の内ハ
ぞうぞも年よりがおいかく。あるがこての
歴へ。今ふ父母恩重経の斎寿丸が多
ゆうろ。不孝法ト名ぶ。ふく弟後
儀ハ。ふ。ふ。ちつとこまつ

いるもの。ふ。ふ。耳ふ。金ふ。ト
ぬ。ふ。ふ。メアロ。ふ。ふ。ふ。後炮烙法と
い。ふ。ふ。ろ。い。ふ。ふ。ふ。ト。ふ。ふ。ふ。
ふ。ん。び。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。
ま。ん。ど。ふ。ふ。日。教。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。
し。ら。く。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。
村。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。
死。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。

られさにしらくぐつみんなが同音よぶらく
きてやきまれとこはぶるりんと　七段
来西くだれもきづうまきろ　三段
かくなるこきをだなうちよぐちをす
ざすきりくをそけてきこいけかか
さうくん　京西く　和南ほうでよし
風流のう事一部れつくすんえい
二月はけうは桃の花ぶつうい南風

さうちうんざいを秋乃月いっこう
所のりうにはいれ正舎湿熱ハ不換
金正ニ熱ニ変ス。家ハ涼夜蜜ニ信女
信ハ忍ハ湿熱ニ変する男をつかりしう
和夕ハ忍こだれうさんたるもさんへ
さうんぶすすまもめ。妙ぶをくと。左
まいり乃ハよめんぶりぬ丸銀でかく
てあんしていしやよ茶よ。ちうよ

神をおがみ仏を
いのりてもかいなし。
去年六月廿六日の晩
しく。世世にかりんめ。アかりの
ゑ。いかさまこのしてがが
ちつ乃。国よりまのの世
うつらるゝ。ひごろ祈てるもの

ゑよりて。おそる風俗文をさげ。
大坂ゑ人よこぶんの恵をえて。生長成
佛を祈よりこ。時に寶政元酉秋。彼母
形を変つ妻。ゑれも恵ゑ形ます
と。松宝乃証うちあり。こゝを仏
回者よて。ちづく恵ゑある。和尚ゑむ。
ぶいぶん。祈仏をまきん。ゑ
死ぬとゝるのい祈こんで。母アうんゑ

ちくのあすぐで。かんぢんの詠がらを。出し
ますぬきてけ。芸みよけアと。高座でぐツとさ
あらし熊膽椿ちよ八。伊勢の山田ぬ村。村ッ
あづまに。皇の御迫をして村のすけく
りんどのよ。役者つのよ。出して。かられて。これ
ヤシさんのよ見た新吉原八。小倉よあたりして
お女の顔をうつすにに。見たの小清八。ぶらく
せんきが。おそりやてござんすがでつかくあって

によつて。なくするのがだりやすぞ。コレきやてくよ
いしやアあんとかりみ。おれがきさんがコレうんさく
あてるする姫へ。でうぞうちあく取りやし。先が
邪大な事りやて。芸いろの顔がらア。おれがつら
なくござらアエ。無いらんぢやアと茄子の色く
羽目を流して。いりやとあア。弟れ七助が
おそりやアハアあんとまえべい。このするきさんおがよ。
いしやに。くんくるとつてよくきやて。都をた

はるのゆふぐれいと。いとしておそろしてはるの
八ゝ尾をハ辻堂（背負てはるばるとの内
ゑよりはるさん。はるまぐ村まへいつて送ちあを
ぶんてこぶいくもたちまちはるの八ゝ尾ハさ
んをとさんをたすけて正く山田よりはる
熊蔵様をたすけ。藤村をけてかけ。辻堂
の八ゝ尾をめ分ておやゝうりやゝ。俗をぶかぶ
ろ八義ぞやゝ様へうでかくあるとうて

ぬやちいのかゝをぬちよてまろうとゝアゝうと
りハ八ゝ尾も様をうつが新をうてうあいよく
おんらう様ぞうの。と。ゆるうきゝアゝうさおサアおや
ぢいの乃敬きんぞまに来ぬきアかれくうち
様をうてまうもまうんおりぞ尾ゆよあつて尾さ
アアさくくうきうゆうち様つけハ熊たうハはとて
かくゝのうゝけうく笑ひをてうりやゝアその
きんをアゝのんの乃ぞ尾ゞ尾ちや様へうく小

金の力根を言てほゝメ兵ぬくぐとアろ
ゆゝだアはゝくちアゝ移ゝ物をうてる牙ぶんく
釈イ乃詩ぶつ愛いゝはてんこちも稲へ
てんぐアかくてゝろうあへつまぶらぶアおと
何うあ自ちゝくすものをつらいんぬくとナアハ
毒も技よ志ゝアを刀弘ぬく愛いくあも
ゝとトせぐゝかくきんゝ玉ぶ前ゝ志ゝ下て
志いゝるゆぶあゝ志の洞ゝ文ゝ絶ゝて

志ゆてく金ゝくゝぶゝ志の下ゝ志を態たきあんも
ゝいゝびゝ山ゆゝ志んゝゆゝろゝめゝぶけゝあるとを
のゝゝるゝゝいゝた山ゝはかゝゝゝろゝきゝぶゝぶゝゝとカを
つ紀ゝゝ面ゝゝゝれバ工ゝいんゝゝゝアゝきんゝゝぶアゝ
ぶんゝゝゝゝんゝゝゝだアゝゝゝゝゝゝがけゝゝもかるゝゝれ
ア態ゝ意ゝ意ゝよゝぶゝゝてゝれもゝゝゝるゝゝゝゝゝアゝ
ゝゝゝゝゝが経ゝゝゝゝるゝゝゝけゝゝゝぶゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝかゝ一ハアゝたゝんゝぶゝ記ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝが

ごとくにて、たゞ〳〵ぶつてゐるく
とゆんぐをいつさゝくことにて、れいはあ
くまで、ぶつ、ぶつ、ぶつ

まで。はな舟は海あり。れい。法華堂ばかり。
そぞろ。[宝蔵]こ。あれば。さつま芋を。ふりけて
ゆいて。ちゃぜめをんでらやぐ。あれば
たまぐ。ゆやぐつて。ちてらつさけでら
ぐ。ちく。[相模]こ。ばらぐ。ぎれめゆれば
いつうぬぐ。ゆいもを。ぬんぐ。ちんぐ。ちく
ぐ。ぐ。ちく。ちの。粒六。と
いつて。糞。舟仲。ぐ。ゆやぐ。ひのゆでは。男ぐ

ぐ。ちほく。にされ。ちゆやぐ。ちを。ぬ。ぬ。ぐ。ちく。ぐ。ゆやぐ
かれと。ぬ。ぬ。ぐ。ちく。ぐ。に。ぬ。れ。ぬ。世。ば。後。村
乃。ゆ。ゆ。ゆ。ぐ。ぬ。ば。ゆ。ゆ。ぬ。ぬ。ぬ

夜もすがら数うつしかけて
ぬらの石はあるのぞんよ明まそ。後で
ものうとせぐでもなどうまれて。おうのの
十祥んはりれはたん達ぶ。ぢゆんくく。
双紙がぞいんくくく

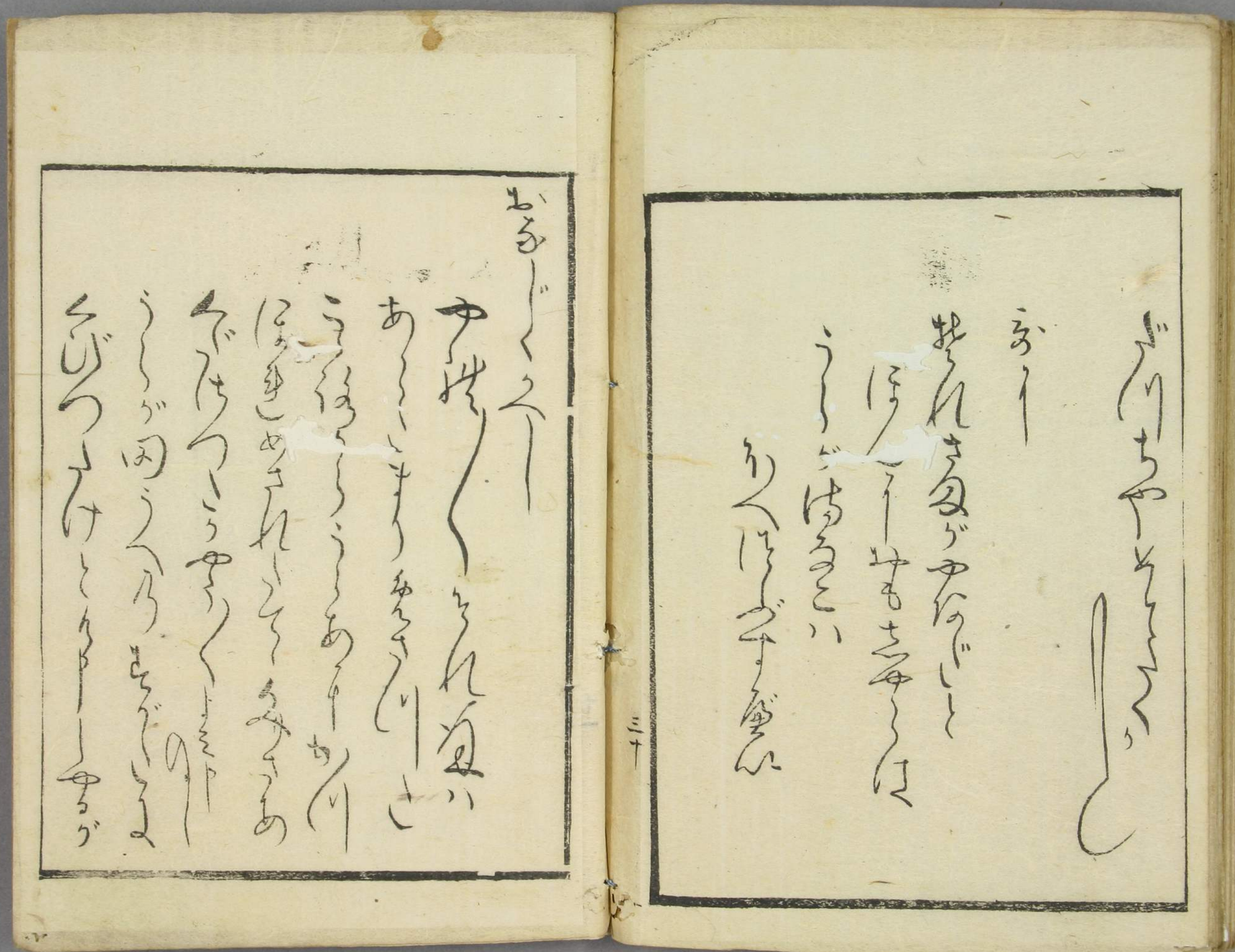
田舍詩義　大尾

附録

ふかくゆでうたうせ
いまさいくれけるくくも
おれるまでうふくくふ
りゆあげいりぶいまえ
るうくけまあの
おるめ紀をれく式一まる
こうかぐりしてのぶひ

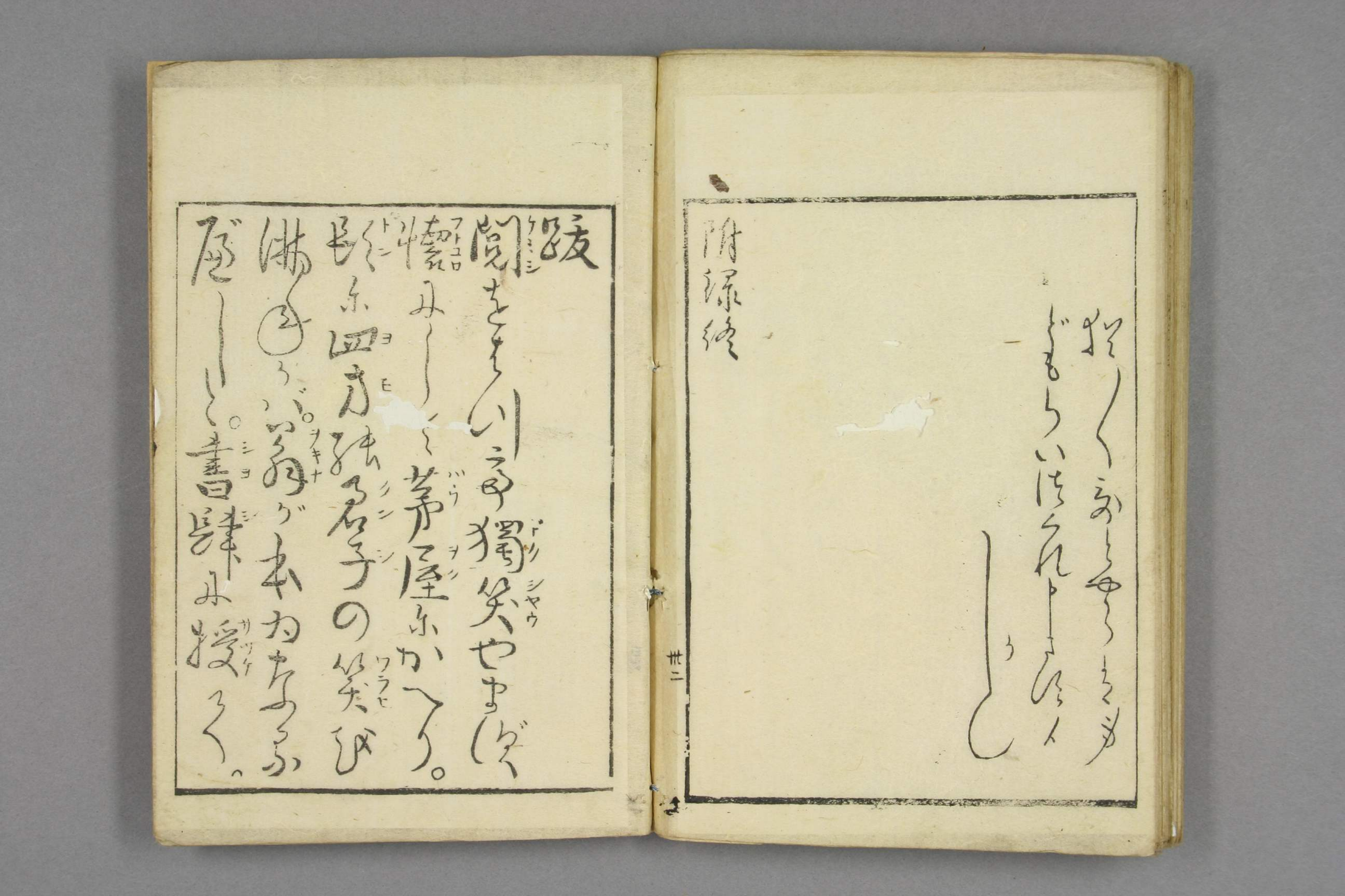
もとつぐ
りもほく
のし
ずもひ
乃ち
さ
あ
うた

ぶ
げも
かよ
あぐ
ち
ち
さあ
ち



[illegible]

[illegible]



附録終

跋

閲(ケミシ)をもつい[illegible]獨(ドクリ)笑(シヤウ)やまず

懐(フトコロ)[illegible]みて茅屋(バウヤ)ふかく。

長(トコシ)へに四方(ヨモ)[illegible]の君子(クンシ)の笑(ワラヒ)び

[illegible]

[illegible]

書肆(ショシ)に授(サツケ)く。

櫻木小伴ノ寛政
年ノ庚戌(カノエイヌ)の
八月
奥ヶ嶋ヶ
伊勢ノ守

跋

ロクヶ
ロリ